



Title	錦蛇の腸内寄生虫 3 種に就て
Author(s)	山下, 次郎; 藤本, 胖; 大林, 正士
Citation	北海道大學農學部邦文紀要, 1(4), 509-512
Issue Date	1953-11-20
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/11553">http://hdl.handle.net/2115/11553</a>
Type	bulletin (article)
File Information	1(4)_p509-512.pdf



[Instructions for use](#)

# 錦蛇の腸内寄生虫3種に就て

山下次郎

(北海道大學農學部動物學教室)

藤本 胖・大林正士

(北海道大學獸醫學部比較病理學教室)

## On three species of parasites collected from the intestine of a reticulated python

By

JIRO YAMASHITA

(Zoological Institute, Faculty of Agriculture, Hokkaido University)

YUTAKA FUJIMOTO and MASASHI OHBAYASHI

(Veterinary Pathological Institute, Faculty of Veterinary Medicine, Hokkaido University)

著者藤本及び大林は稚内市に於て某サーカスで斃死したビルマ産錦蛇 *Python reticulatus* SCHNEIDER を剖見し、その小腸内及び食道より胃に亘つて多数の寄生虫3種(線虫2種、條虫1種)の寄生を認め、これら3種の中條虫に就ては既に我國に於て詳細な形態學的研究が公表されているが、線虫に就ては未だ我國に於て報告された例を聞かない。依つてここにこれら寄生虫の形態を記載して参考に供し度いと思ふ。宿主病變部の病理組織學的所見に就ては近く藤本・大林等により報告の豫定である。

なおこの錦蛇は体長507 cm、体圍32 cmで、7月中旬ビルマより輸入され、同年8月18日斃死したものである。即ち輸入後我國に於て飼育された期間は約1箇月に過ぎない。今回本宿主から発見された寄生虫の發育状態及び上記の事實を併せ考えれば、これらの寄生虫が既にビルマに於て感染したものであることは疑いのないところである。

### 1. *Polydelphis oculata* (v. LINSTOW, 1899)

本種は宿主の小腸に多数発見され、その大部分は成虫で、少数は若虫であつた。又本種は食道

から胃にかけても少数発見されたが、何れも若虫であつた。

成虫は体長♂71~79 mm、♀88~95 mmで、体幅は♂2 mm、♀2.3~2.5 mmを有し、体の前1/3は細く、後体部は肥大して圓筒状を呈し、尾部は鈍圓でその先端に小指頭狀の附屬物が認められる。口部には3個の口唇を有し、interlabiaは存在しない。背側口唇は長さよりもやや幅廣く、2個の乳頭を有する。他の口唇には何れも1個宛の乳頭が存在し、口唇内側に各1個の突起を有する。口唇の基部と体との境界は凹溝を構成しない。食道は単一で短く、胃部を認めない。

♂は2本の細長く且つ等長の交接刺を有し、体のほぼ1/11~1/12の長さを有する。副交接刺はない。後肛乳頭は2對存在し、前肛乳頭は8~11對を認める。

♀は体の中央より前方に生殖孔を有し、膈は体後方に向い、子宮は4本に分岐して体後方に走る。卵は短楕圓形を呈し0.060~0.080×0.055~0.062 mmの大きさを有し、卵殻表面に點狀の凹凸が密在する。卵殻は厚い。

BAYLIS, H. A. (1920) 及び CANAVAN, W. P. N. (1929) 等の報告した虫体はそれぞれ♂55 mm、

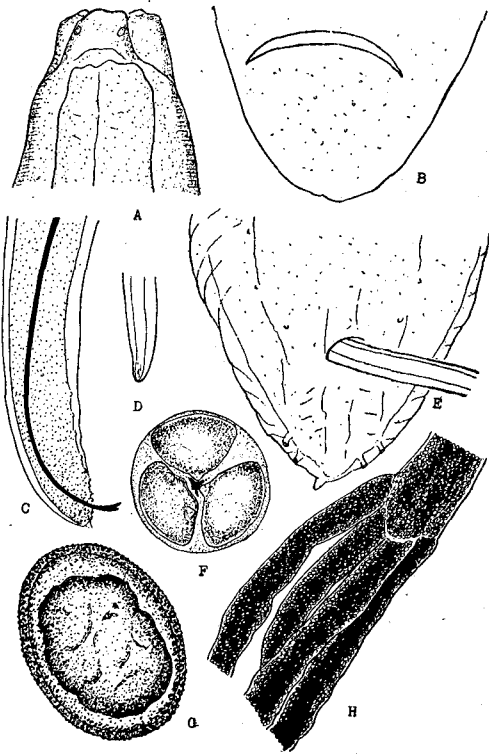


Fig. 1. *Polydelphis oculata*.

A, head, dorsal view; B, tail of female, ventral view; C, tail of male, lateral view; D, tip of spicule; E, tail of male, ventral view; F, three lips, end-on view; G, egg; H, vagina and four-branched uterus.

♀ 63 mm 及び ♂ 58 mm, ♀ 63 mm であり, 著者等の採集したものは上記虫体より大きく, その大きさは従来錦蛇より得られた *Polydelphis anoura* (♂ 116 mm, ♀ 144 mm) と *P. oculata* との中間に位するものであり, 而も *P. oculata* に近い。前肛乳頭の数は *P. oculata* よりも多い。他の標徴は一致する。本属及び近縁の属に就ての諸家の記載を見れば前肛乳頭の数は同一種でも必ずしも一致せず, 多少の變異が認められている。著者等の今回得た虫体間にも他の標徴は一致するにも拘らず前肛乳頭の数は 8~11 對を示し, 多少の變異が見られた。以上の點から著者等は本種を *Polydelphis oculata* と同定するのが最も妥當と信ずる。

## 2. *Capillaria longispicula* (SONSINO, 1889)

本種は宿主の小腸に多數寄生し, 体は極めて

細長く恰も絹糸状を呈し, ♂ は 33~40 mm × 0.06~0.07 mm, ♀ は 49.5~52.5 mm × 0.09~0.1 mm の大きさを有し, 口部の發育は悪く, 食道は細長く体のほぼ前 1/3 を占め, 胃部を認めず直ちに腸に連る。♂ の交接刺は細長く, 交接刺鞘に包圍され, 長さは 3.5~3.8 mm で体長の約 1/10 に相當する。交接刺の先端はやや丸味を帯び, 体の尾部は僅かに膨隆して交接囊を形成するが, その發育及び構造は幼稚である。排泄孔は尾端に近く腹面に開く。

♀ は食道末端部よりやや下方即ち体のほぼ前 1/3 の部の腹面に生殖孔を有し, 膈は後方に向う。子宮以下は分岐せず單一の細管をなし, 体後方に走る。体の後端は鈍圓に終り, 肛門は尾端に近く腹面に開く。卵はレモン状を呈し, 0.058~0.067 mm × 0.030~0.033 mm の大きさを有し, 壁厚く, 兩端に小蓋あり, 小蓋の突出は軽度で, 卵殻表面には僅かに隆起した地圖状の斑紋がある。

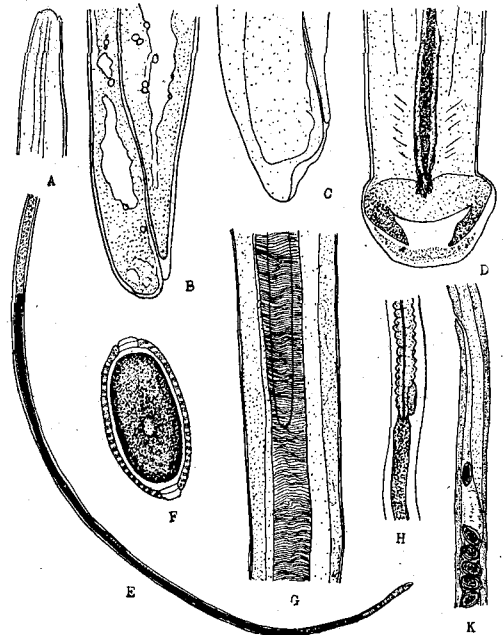
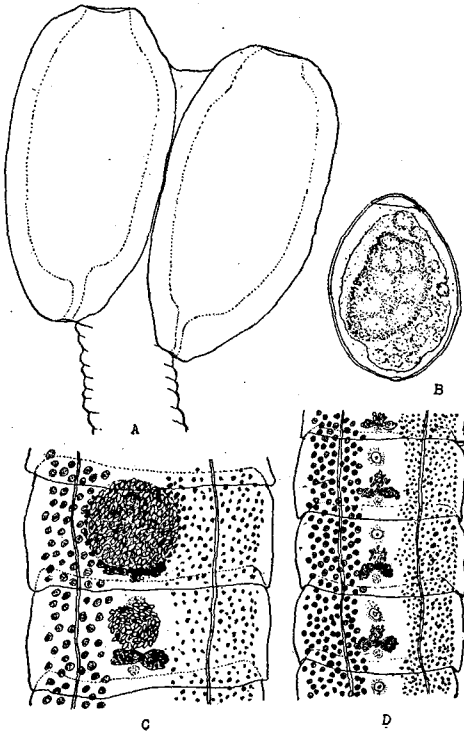


Fig. 2. *Capillaria longispicula*.

A, head; B, tail of female, lateral view; C, ibid. male; D, ibid. ventral view; E, tail and spicule; F, egg; G, spicular sheath and tip of spicule; H, Base of oesophagus; K, vulva and vagina.

3. *Bothridium pythons* BLAINVILLE, 1824

本種は宿主の小腸より多数得られたが、頭節を完全に保有した虫体は2個体で、その大きさはそれぞれ  $50 \times 5$  mm 及び  $45 \times 5.5$  mm であつた。頭部には左右接近して大形の吸管2個を有し、左右の吸管は同形であるが、虫体個体間には吸管を異にするものがある。著者等の採集したものでは壺状を呈するものと球状を呈するものとが認められ、その大きさはそれぞれ  $4.5 \times 2.0$  mm,  $3 \times 3$  mm であつた。吸管の壁は厚く、前後両端は開口し、前端の開口は大きく、後端のものは小形である。頸部は  $4 \sim 4.5$  mm  $\times$   $1.5 \sim 2$  mm で、片節数は300

Fig. 3. *Bothridium pythons*.

A, Scolex; B, egg; C and D, mature segment; C, uterus filled with eggs.

個位である。生殖孔は腹面の中央前方に在り、睪丸及び卵黄巣は片節の両側野に分布する。睪丸の形状は長楕圓形で、 $0.09 \times 0.04$  mm の大きさを有し、陰莖の突出するものが往々見られる。卵巣は片節の後縁に近く存在し、左右兩葉は不規則な形を呈し、中央線上で溢れて連絡する。子宮は囊状を呈し、腹面中央に外口を開く。成熟片節では虫卵は子宮囊内に充満すれば子宮囊は大球状体として認められ片節の中央部の殆んどを占める。卵は卵圓形を呈し、卵殻は薄く、一端に小蓋を有する。他端には透明なレンズ状の小突出部が認められる。卵の大きさは  $0.075 \sim 0.080$  mm  $\times$   $0.051 \sim 0.054$  mm である。

本種は BLAINVILLE が王蛇の一種 *Boa* sp. から発見し、其の後獨乙に於て數氏の斷片的研究がなされたが、我國に於て小林・正垣(1935)により印度産錦蛇 *Python reticulatus* から得られた材料に就て詳細な研究が公表されている。著者等の今回採集した虫体もこれらの記載とよく一致する。

## 主な文献

- 1) BAYLIS, H. A. (1921): On the classification of the Ascaridae (ii) The Polydelphis group, with some account of other Ascaris parasitic in snakes. *Parasitol.*, 12, 411.
- 2) CANAVAN, W. P. N. (1929): Nematode parasites of vertebrates in the Philadelphia Zoological Garden and vicinity. *Ibid.* 21, 63.
- 3) FREITAS, J. F. T. & H. LENT (1935): Capillariinae de animaes de sangue frio (Nematoda: Trichuroidea), *Mem. Inst. Osw. Cruz*, 30, 241.
- 4) 小林久雄・正垣幸男 (1935): 錦蛇の條虫 *Bothridium pythons* BLAINVILLE に就て. *植物及動物*, 3, 1135.
- 5) LÜHE, M. (1900): Beiträge zur Kenntnis der Bothriocephaliden, III. Die Bothriocephaliden der landbewohnenden Reptilien. *Centralbl. f. Bakt.*, 27, 209.
- 6) RAILLIET, A. & A. HENRY (1910): Sur quelques helminthes du *Python sebae* (GMELIN). *Bull. Soc. exot.*, Paris, 3, 94.

### Résumé

We have collected many parasites from the small intestine of a dead reticulated python, *Python reticulatus* SCHNEIDER delivered by a circus in Wakkanai City. These were identified as follows:

1. *Polydelphis oculata* (v. LINSTOW, 1899)
2. *Capillaria longispicula* (SONSINO, 1889)
3. *Bothridium pythonis* BLAINVILLE, 1824

In this paper these species were described morphologically. The report of the former two species are first in Japan.

This snake was imported from Burma at the middle of July by a circus in Wakkanai, Hokkaido, and died after about one month. So there is no doubt that these parasites have already infected in Burma.

---